

## 【 学校施設の長寿命化について 】

昭和 50 年頃から 60 年頃の生徒急増期に整備された学校  
が、今後一斉に更新時期を迎えることとなりますが、他都府  
県に比べ多くの学校施設を保有している本道では、全国を上  
回る少子化が進む中で、コストの縮減・平準化等を行いなが  
ら老朽化対策を行うことが課題となっています。

学校は、北海道の未来を担う子供たちの命を預かる場であ  
り、その基盤となる学校施設は、他の公共施設にも増して、  
安全・安心が求められるものと考えていますので、以下、今  
後の対応などについて伺います。

### (一) 長寿命化改修の基準等について

道有施設を耐用年数以上使用するため、道教委では長寿命  
化改修を行うこととしていますが、長寿命化改修工事の実施  
基準と、これまでの学校施設の改修実績及び今後 10 年間で  
長寿命化改修が必要となる学校数について伺います。

(答弁：総務政策局長 伊賀治康)

・道教委では、『北海道ファシリティマネジメント推進方針』  
に基づき、『北海道立学校施設長寿命化計画』を策定し、耐

用年数である建築後 47 年目を迎える前に長寿命化診断を行い、概ね 20 年以上の使用が可能なものについては、長寿命化改修工事を実施している。

・これまでの改修実績としては、現在、設計中の学校も含め、13 校で実施、令和 16 年度までに建築後 47 年を迎える学校は 127 校となっている。

## (二) 長寿命化改修の内容について

学校施設について行っている、長寿命化改修の具体的な工事内容について伺います。また、改修に併せて、太陽光発電の設備や道産材を活用した木質化など、道が進める脱炭素に関する工事を行うことも必要と考えますが、このことについても併せて伺います。

(答弁：施設課長 角谷浩司)

・屋上防水や外壁塗装の塗り替え、配管類やボイラーの更新、電気設備の改修、内窓冊子の断熱化などの基本メニューのほか、空調設備の整備や照明の LED 化など、環境や社会情勢の変化に応じた整備も行っている。

- ・太陽光発電設備や木質化などの脱炭素化に関する工事については、これまでも改修や増築の際に行っているが、『道有建築物の脱炭素化指針』を踏まえ、知事部局とも連携しながら、長寿命化改修における取組についても検討してまいります。

### (三) 入札の不調について

報道によると、道内の建設需要の高まりや人手不足により、公共施設の工事が計画どおりに進まない現状があり、昨年度、道立学校でも4件の入札不調があったとのこと。

今後も同様の事案が生じると予想されますが、整備に遅れが生じないように入札不調などの対策として、どのような取組を行っているのか伺います。

(答弁：施設課長 角谷浩司)

- ・昨年度発注の大規模改造工事において、4件の入札不調があり、建設業界への聞き取りから、物価高騰や人手不足、札幌圏の工事量などに起因するものと考えている。

- ・この為、工事の計画に遅れが生じないように、設計や発注の

スケジュールを調整するほか、債務負担行為を活用し、年度当初からの工事を可能とするなど、施工時期の平準化に努めている。

#### (四) 施設の点検について

施設を良好に維持するためには、日常的な点検に加え、必要に応じて専門的な観点から施設の点検も重要と考えます。

学校における点検はどのように実施しているのか伺います。

(答弁：施設課長 角谷浩司)

・学校では、『北海道教育委員会建築物等保全規定』に基づき、建築基準法に定める『定期点検』や巡回して行う『日常点検』を適宜実施。

・昨年度から、専門知識を有する技術職員による施設点検に係る研修会を開催し、点検する者の資質向上に努めているほか、必要に応じ、技術職員が現地調査を実施し、臨時・応急的な対策の検討を行うなど、施設の整備・保全に取り組んでいる。

## (五) 今後の長寿命化対策について

今後も長寿命化改修が必要となる学校の増加に加え、物価高騰や労務単価の上昇などで工事費が増大するなど、学校施設整備を取り巻く状況は非常に厳しいと思われませんが、道教委では、今後どのようにして長寿命化対策を講じていくのか伺います。

(答弁：教育長 中島俊明)

- ・学校は児童生徒が一日の大半を過ごす学習の場であることから、教育環境の整備は極めて重要。
- ・道教委としては、引き続き学校施設の点検や修繕を適切に行い、老朽化を起因とした事故の未然防止に努めるとともに、『北海道立学校施設長寿命化計画』における長寿命化改修を基本としながら、『これからの高校づくりに関する指針』や『特別支援教育に関する基本方針』を踏まえ、持続可能なメンテナンスサイクルの構築やトータルコストの縮減に取り組むなど、良好な教育環境となるよう施設整備に努めてまいります。